愛知川砂礫河原におけるカワラバッタの生態調査

里山学研究センター・博士研究員
太田　真人
龍谷大学先端理工学部・教授　里山学研究センター・研究員
遊磨　正秀

本調査は2019年から始めた調査であり，砂礫河原にしか生息していない直翅目カワラバッタ*Eusphingonotus japonicus*を対象に，微生息環境の条件を解明することを目的としている．2019年の調査から砂礫河原の植生の繁茂具合と表層の礫粒径の頻度分布が関係していることが示唆された．そこで今年度は，カワラバッタの生息数調査，砂礫河原の植生調査に加え，トイドローン（Mavic mini DJI）を用いて撮影した俯瞰写真を用いた植被率の測定および砂礫河原の粒度分布調査を新たに加え調査を行った．本来の予定ではカワラバッタの幼体が出現する５月６月頃から調査を行う予定であったが，新型コロナウィルスの蔓延により全国に緊急事態宣言が発令されたため県を跨ぐ移動が憚れたため，解除後の７月から行った．調査地は滋賀県の湖東を流れる琵琶湖流入河川の一つ，愛知川の紅葉橋（河口からの距離：約27km）と八千代橋（約20km）で行った．

表１．調査実施日および調査内容

調査日	調査内容
2020. Jul 16	予備調査（調査地の状況確認，カワラバッタの生息確認）
2020. Aug 11	カワラバッタ個体数調査，植生調査
2020. Aug 12	俯瞰写真撮影（ドローン）
2020. Sep 14	カワラバッタ個体数調査，植生調査，俯瞰写真（ドローン）
2020. Oct 13	カワラバッタ個体数調査，植生調査，俯瞰写真（ドローン）
2020. Oct 25	砂礫河原の砂礫回収
2020. Nov 11	カワラバッタ個体数調査，植生調査，俯瞰写真（ドローン）
2020. Dec 15	カワラバッタ個体数調査（個体数０確認）



写真１　ドローンによる俯瞰写真（植被率測定用）



写真２
粒度分布測定用の
砂礫採取の様子